向うに体が丈夫で気立てのやさしい娘がおったどぉ。それでばか婿にこの娘さんがよかろうということになって、早速ご指南がやってきて、見合いということになったんだどぉ。それでばか息子の母親は、おちどのないようにといろいろかたり聞かせたどぉ。「まずなあ息子、ごちそうのことでなあ、だんごがでたら一口にほおばるもんでねえ。わかったかえ。」ばか息子は「おっかあ、よく承知した。そうすべい。」そして支度をしてご指南につき添われて見合いに娘の家に出かけだんだどぉ。案の定、娘の家ではだんごをたくさんふるまってくれた。ばか息子はそれでいわれた通り一つほおばることでねえと思って二つを一度に口に入れ、のどにひっかけるばかりうめい、うめいと食ったんだどぉ。

ばか婿のはなし ㋣

みなみやまのばか婿があるとき、しゅうとのところへよばれて行ったどぉ。なにをよばれるか腹も空いているし、心待ちにごちそうを待ったどぉ。そしたらうすもちがでて、あんもちやら、くるみもち。舌鼓を打って何杯かお代わりをして腹いっぱいたらふくになったとき、給仕の娘にそうっといったどぉ。「はじめのあんもちのようなうまいお代わりをくれ。」となあ。

ばか婿のはなし ㋒

ばか婿が嫁とりしたばかりのころ、ひとりでしゅうとのところに行くことになったんだどぉ。初めてのことではあるし、小道がいくつにもわかれて山に入るので、迷ったら家へもどれなくなるほどだったんだどぉ。そこで「おっかあ、どうすべいおらひとりでゆけねえ。」といいだしたんだどぉ。すると母親は「息子よ一ついいこと考えた。もみぬかを袋に入れて持ってゆけ。それを少しづつ小道にまいてゆくのじゃ。もどり